

【表紙】

【提出書類】	有価証券報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	2017年6月22日
【事業年度】	第39期（自 2016年4月1日 至 2017年3月31日）
【会社名】	株式会社ココスジャパン
【英訳名】	COCO'S JAPAN CO.,LTD.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 池田 安希子
【本店の所在の場所】	東京都港区港南二丁目18番1号
【電話番号】	03 - 6833 - 8000(代表)
【事務連絡者氏名】	経営企画室ゼネラルマネジャー 額川 幸夫
【最寄りの連絡場所】	東京都港区港南二丁目18番1号
【電話番号】	03 - 6833 - 8000(代表)
【事務連絡者氏名】	経営企画室ゼネラルマネジャー 額川 幸夫
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

提出会社の経営指標等

回次	第35期	第36期	第37期	第38期	第39期
決算年月	2013年3月	2014年3月	2015年3月	2016年3月	2017年3月
売上高 (千円)	57,180,848	58,313,259	59,096,857	58,511,610	58,532,882
経常利益 (千円)	3,281,052	2,633,816	2,506,434	2,535,130	2,481,189
当期純利益 (千円)	1,772,165	1,366,891	1,354,907	1,487,476	1,450,387
持分法を適用した場合の投資利益 (千円)	-	-	-	-	-
資本金 (千円)	3,198,904	3,198,904	3,198,904	3,198,904	3,198,904
発行済株式総数 (株)	17,268,273	17,268,273	17,268,273	17,268,273	17,268,273
純資産額 (千円)	20,042,264	20,969,439	21,917,010	22,997,150	24,040,202
総資産額 (千円)	27,676,484	27,564,821	29,502,636	29,247,582	30,201,934
1株当たり純資産額 (円)	1,180.88	1,235.51	1,291.34	1,354.98	1,416.43
1株当たり配当額 (円)	24.00	24.00	24.00	24.00	24.00
(うち1株当たり中間配当額)	(12.00)	(12.00)	(12.00)	(12.00)	(12.00)
1株当たり当期純利益金額 (円)	104.41	80.54	79.83	87.64	85.46
潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額 (円)	-	-	-	-	-
自己資本比率 (%)	72.4	76.1	74.3	78.6	79.6
自己資本利益率 (%)	9.2	6.7	6.3	6.6	6.2
株価収益率 (倍)	15.2	19.8	22.6	21.5	23.6
配当性向 (%)	23.0	29.8	30.1	27.4	28.1
営業活動によるキャッシュ・フロー (千円)	4,164,537	4,046,014	5,592,104	3,224,372	4,364,721
投資活動によるキャッシュ・フロー (千円)	1,990,117	2,664,268	1,606,448	2,389,260	2,722,203
財務活動によるキャッシュ・フロー (千円)	3,251,453	1,384,915	937,630	744,563	620,253
現金及び現金同等物の期末残高 (千円)	1,028,101	1,024,931	4,072,957	4,163,506	5,185,770
従業員数 (人)	595	557	534	534	490
[外、平均臨時雇用者数]	[5,624]	[6,095]	[5,665]	[5,370]	[5,744]

(注) 1. 売上高には、消費税等は含まれておりません。

2. 潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額は、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

3. 持分法を適用した場合の投資利益は、関連会社がないため記載しておりません。

4. 従業員数欄に、臨時雇用者の年間平均人員(1日8時間換算による月平均人数)を[]内に外数で記載しております。

2【沿革】

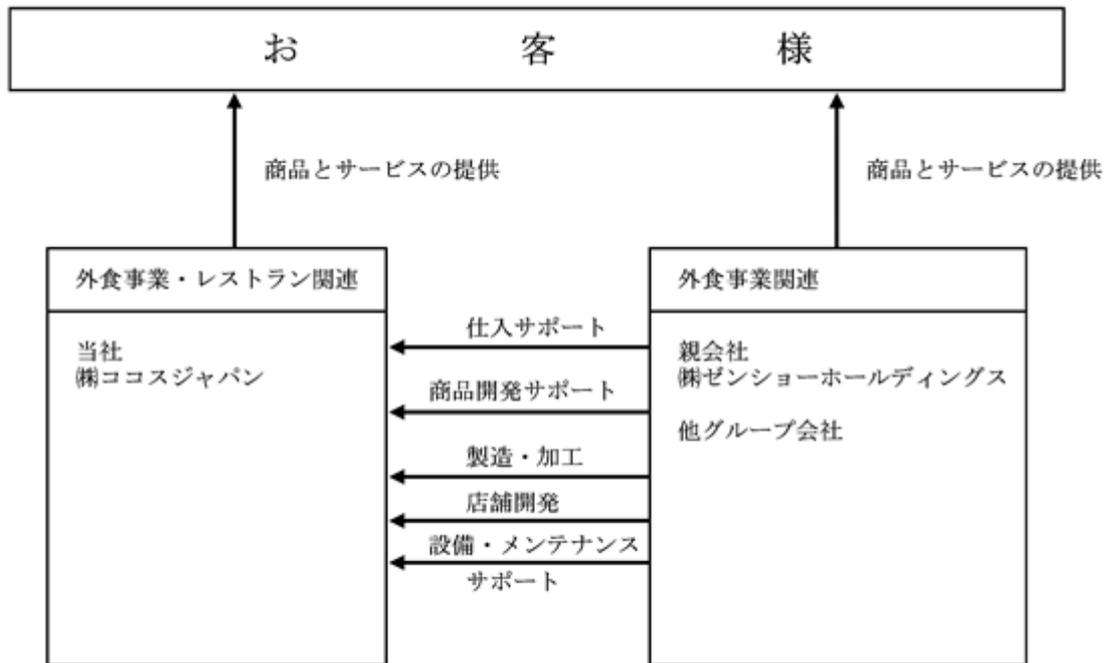
- 1978年4月 株式会社ろびんふっど（現 ㈱ココスジャパン）を茨城県土浦市に設立。
4月 「サービスセンター」を茨城県土浦市に設置。
4月 ファミリーレストラン“ろびんふっど”第1号店・ろびんふっど土浦店（現 ココス土浦店）を茨城県土浦市に開店。
- 1980年2月 米国ファーウェストサービスインク（現 カタリーナレストラングループ）との「技術援助およびライセンス契約」が発効（1980年1月締結）。
- 10月 ファミリーレストラン“ココス”第1号店・ココス中貫店を茨城県土浦市に開店。
- 1984年5月 株式会社平和堂と「技術援助およびサブライセンス契約」を締結。のちに同社の子会社㈱ファイブスターが原契約を継承。
6月 株式会社サニーマートと「技術援助およびサブライセンス契約」を締結。のちに同社の子会社㈱ピーターぱんが原契約を継承。
- 1985年4月 テストキッチン機能を持つ「学園サービスセンター」を茨城県新治郡桜村（現 つくば市）に設置。
- 1986年8月 焼肉レストラン“宝島”第1号店・宝島天川店を茨城県土浦市に開店。
- 1987年2月 商号を株式会社ココスジャパンに変更。
1988年2月 第100号店（ココス君津店）を千葉県君津市に開店。
12月 メキシカンディナーレストラン“エルトリート”第1号店・エルトリート西葛西店を東京都江戸川区に開店。
- 1990年4月 アメリカンディナーレストラン“ザ・ナインティーン”を茨城県つくば市に開店。
- 1993年2月 「サービスセンター」を茨城県つくば市に設置し、「サービスセンター」と「学園サービスセンター」を統合。
7月 社団法人日本証券業協会に店頭登録銘柄として登録、資本金を18億78百万円に増資。
- 1995年4月 カタリーナレストラングループとの「技術援助およびライセンス契約」を更改。
12月 第200号店（ココス瑞江店）を東京都江戸川区に開店。
- 1996年2月 調理センターと物流センターを持つ、「ココスカリナリーシステム」を茨城県土浦市に設置。
5月 株式会社ファイブスターと「技術援助およびサブライセンス契約」を更改。
6月 株式会社ピーターぱんと「技術援助およびサブライセンス契約」を更改。
9月 「ココスカリナリーシステム」において「ISO9002」の認証を取得。
- 1999年4月 「ココスカリナリーシステム」において、衛生管理の国際規格「HACCP」の証明の取得。
- 2000年6月 本店（旧 サービスセンター）をつくば市西大橋に移転。
7月 株式公開買付により、筆頭株主が株式会社ゼンショー（現 ㈱ゼンショーホールディングス）となりゼンショーグループとなる。
- 2001年4月 本店（旧 サービスセンター）をつくば市小野崎に移転。
11月 “炭火焼肉いちばん”第1号店・いちばん原町店を福島県原町市に開店。
- 2002年5月 株式会社西洋フードシステムズが新たに設立したロードサイドレストラン事業を営む株式会社シージェーフードの全株式を譲受ける。
8月 株式会社シージェーフードを吸収合併。
10月 株式会社はま寿司設立。
- 2004年2月 本社事務所を東京都港区港南へ移転。
12月 社団法人日本証券業協会への店頭登録を取消し、ジャスダック証券取引所に株式を上場。
- 2006年3月 エルトリート事業及び宝島事業を簡易分割の方法により会社分割し、それぞれ株式会社エルトリートジャパン、株式会社宝島に承継。
- 2007年11月 株式会社サンデーサン（現㈱ジョリーパスタ）から、同社が会社分割した株式会社CSの全株式を取得し、子会社化。
- 2008年4月 株式会社はま寿司、株式会社エルトリートジャパン及び株式会社宝島の保有株式全株を株式会社ゼンショー（現 ㈱ゼンショーホールディングス）に譲渡。
- 2009年9月 株式会社CSを吸収合併。
- 2010年2月 株式会社ファイブスターと「ライセンス契約」を更改。
2月 株式会社ピーターぱんと「ライセンス契約」を更改。
4月 ジャスダック証券取引所と大阪証券取引所の合併に伴い、大阪証券取引所JASDAQ（現・東京証券取引所JASDAQ（スタンダード））に上場。
- 2011年10月 親会社株式会社ゼンショーが株式会社ゼンショーホールディングスに商号変更し、持株会社体制へ移行。

3【事業の内容】

当社グループ（当社及び当社の関係会社）は、当社（株）ココスジャパン）及び親会社で構成され、外食事業を主な事業内容としております。

当社は、1,000円価格帯のスタンダードレストラン「ココス」を全国的に直営及びF Cで展開しており、店舗数は、584店舗（直営506店舗、ライセンス78店舗）となっております。

なお、事業系統図は、次のとおりであります。



4【関係会社の状況】

関係会社は次のとおりであります。

名称	住所	資本金 (千円)	主要な事業の 内容	議決権の被 所有割合 (%)	関係内容
(親会社) 株ゼンショーホール ディングス	東京都港区	23,470,205	外食事業	51.3	同社から原材料の仕入を 行っている。 役員の兼任あり。

(注) 1. 有価証券報告書提出会社であります。

2. 「主要な事業の内容」欄には、セグメントの名称を記載しております。

5【従業員の状況】

(1) 提出会社の状況

2017年3月31日現在

従業員数(人)	平均年齢(歳)	平均勤続年数(年)	平均年間給与(千円)
490(5,744)	40.5	14.2	6,008

セグメントの名称	従業員数(人)
外食事業	490(5,744)
合計	490(5,744)

- (注) 1. 平均年間給与は正社員を対象としており、基準外賃金及び賞与を含んでおります。
2. 従業員数は就業人員であります。
3. 従業員数欄に、臨時雇用者の年間平均人員(1日8時間換算による月平均人数)を()内に外数で記載しております。

(2) 労働組合の状況

1. 結成年月日 1980年6月6日
2. 名称 ココスジャパンユニオン
3. 所属上部団体 U A ゼンセン
4. 組合員数 407名(2017年3月31日現在)
5. 労使関係 労使関係は円満に推移しており、特記すべき事項はありません。

第2【事業の状況】

1【業績等の概要】

(1)業績

当事業年度（2016年4月1日から2017年3月31日まで）におけるわが国経済は、企業収益や雇用環境の改善などを背景として緩やかな景気回復基調で推移いたしました。一方、米国経済の動向やアジア新興国・欧州経済の動向など、世界経済の不確実性の高まりにより、先行き不透明な状況が続きました。

外食産業におきましては、労働需給バランスの悪化や個人消費に停滞感が見られたことなどにより、引き続き厳しい経営環境となっております。

このような状況のもと当社は、安全でおいしい「食」の提供と質の高いサービスを通じてお客様に豊かさと幸せを提供することに全力で取り組んでまいりました。

当事業年度末の店舗数につきましては、沖縄県・熊本県にそれぞれココスを初出店するなど、合計14店舗の出店（直営10店舗、ライセンス4店舗）を行った結果、584店舗（直営506店舗、ライセンス78店舗）と前期末比9店舗の純増となりました。

売上高につきましては、店舗のQ Q S C（クオリティ・クイックサービス・クリンリネス）を磨き上げるとともに、お得なセットメニューの提案や健康志向メニューの導入、新商品であるプレミアムハンバーグをメインとしたT V C M放映を行うなど、客数の増加に努めてまいりましたが、業界全体の景況感や夏季商戦期間中の天候不順等の影響もあったことから、上半期の既存店売上高前年比は94.6%と、前年同期を下回って着地いたしました。下半期につきましては販売促進を強化した結果、既存店売上高前年比は100.4%となり、通期の既存店売上高前年比は、97.3%まで回復いたしました。

利益面につきましては、原材料価格やエネルギーコストの低減等があったものの、上半期の既存店売上高の前年未達が主要因となり、前年同期比で減益となりました。

以上の結果、当事業年度の業績は、売上高585億32百万円（前期比0.0%増）、営業利益23億88百万円（同2.4%減）、経常利益24億81百万円（同2.1%減）、当期純利益14億50百万円（同2.5%減）となりました。

(2)キャッシュ・フローの状況

当事業年度における現金及び現金同等物（以下「資金」という）は、営業活動によるキャッシュ・フローが43億64百万円の資金の増加、投資活動によるキャッシュ・フローが27億22百万円の資金の減少、財務活動によるキャッシュ・フローが6億20百万円の資金の減少となり、当事業年度末の資金残高は51億85百万円となりました。

営業活動によるキャッシュ・フローの資金の増加要因につきましては、税引前当期純利益23億74百万円、減価償却費26億12百万円等によるものであります。

投資活動によるキャッシュ・フローの資金の減少要因につきましては、有形固定資産の取得による支出26億35百万円等によるものであります。

財務活動によるキャッシュ・フローの資金の減少要因につきましては、配当金の支払額4億7百万円等によるものであります。

2【仕入、受注及び販売の状況】

(1) 仕入実績

当事業年度における仕入実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	当事業年度 (自 2016年4月1日 至 2017年3月31日)	
	金額(千円)	前年同期比(%)
外食事業	19,728,310	98.9
合計	19,728,310	98.9

(注) 上記金額には消費税等は含まれておりません。

(2) 受注状況

当社の主たる事業は飲食店舗の運営であり、提供するサービスの性格上、受注状況の記載になじまないため、記載を省略しております。

(3) 販売実績

当事業年度の販売実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	当事業年度 (自 2016年4月1日 至 2017年3月31日)	
	金額(千円)	前年同期比(%)
外食事業		
レストラン	55,550,904	99.9
その他	2,981,977	102.0
合計	58,532,882	100.0

(注) 1. その他の主なものは、加工食品及び売店商品等であります。

2. 上記金額には消費税等は含まれておりません。

3【経営方針、経営環境及び対処すべき課題等】

お客様満足度の向上

当社は、以下のQ Q S Cの更なる追求をし、お客様満足度の向上を図ってまいります。

- ・Q：クオリティー
安全安心な商品の提供と品質の向上
- ・QS：クイックサービス
笑顔溢れる元気な挨拶とキビキビとした接客
- ・C：クリンリネス
お客様の居心地の良い清潔な空間の提供

地域人財の登用と育成

当社は、人材を人財と呼び、お客様にサービスを提供する従業員も貴重な財産として考えております。店舗をその地域のお客様に愛されるようなお店にしていくためには、その地域で育った思い入れのある人材を採用し、リーダーへと育成していくことが重要であると考えております。パート・アルバイトの契約社員化や地域社員化を積極的に推進することによって、地域密着の店舗を増やしてまいります。

収益基盤の強化

当社では、今後の安定的な成長を実現するために、お客様満足度の向上・人財の登用と育成の強化をすること等により店舗売上高の増大を図るとともに、コスト効率への追求を推進していき、経常利益率10%の目標に向け努めてまいります。

なお、文中の将来に関する事項は、当事業年度末現在において当社が判断したものであります。

4【事業等のリスク】

当社の事業その他に関するリスクについて、当社の判断に重要な影響を及ぼす可能性があると思定される主な事項を記載しております。当社はこれらリスク発生の可能性を認識した上で、発生の回避及び発生した場合の対応に努める所存であります。

本項においては、将来に関する事項が含まれておりますが、当該事項は当事業年度末現在において判断したものであります。

(1)「食」の安全性について

食材偽装問題、異物混入問題等、食材の安全性に対する消費者の意識が高まる中、当社においては「食」の安全・安心については、リスク管理事項の中でも最重要事項であると捉えており、食材の調達から店舗で提供する商品に至るまでの品質及び安全衛生管理については、諸法令の定める基準を遵守することはもとより独自の安全衛生管理体制を構築し、最大限の注意を払っております。

(2)法的規制について

当社では、会社法、金融商品取引法、法人税法等の一般的な法令に加え、食品衛生法、労働基準法、容器包装リサイクル法等、店舗の営業に関わる各種法規制や制度の制限を受けております。これらの法的規制が強化された場合、それに対応する為の新たな費用が増加することにより、業績に影響を及ぼす可能性があります。

(3)仕入価格の変動について

当社の食材仕入価格は、天候要因による市場価格並びに外国為替相場の動向により大きく変動するものが含まれており、特に米や野菜の不作や肉類等の輸入禁止措置などにより食材仕入価格が乱高下し、業績に影響を及ぼす可能性があります。

(4)自然災害のリスクについて

当社の営業活動や工場所在地を含む地域で大規模な地震や洪水等の災害が発生した場合、被災状況によっては正常な事業活動ができなくなり、業績に影響を及ぼす可能性があります。

(5)労務関連について

当社においては多くのパートタイム従業員が業務に従事しておりますが、今後社会保険、労働条件などに係る諸制度に変更がある場合、人件費の増加となり、業績に影響を及ぼす可能性があります。

(6)減損会計について

当社において、今後固定資産の減損に係る会計基準に基づき減損損失を計上することになった場合、業績に影響を及ぼす可能性があります。

(7)競争の激化について

国内の外食マーケットは下げ止まりの傾向にありますが、競合他社との競争は今後更に激化することが予想されます。当社が消費者のニーズにあった付加価値の高い商品を提供できない場合には、市場におけるシェアや商品ブランド力の低下につながり、業績に影響を及ぼす可能性があります。

(8)差入保証金の回収について

当社が展開している店舗の多くは土地建物を賃借して営業をしております。当社は賃貸人に対して保証金を差し入れておりますが、賃貸人の倒産やその他の事由により、保証金を回収できなくなるリスクがあります。その場合、当社の業績に影響を及ぼす可能性があります。

5【経営上の重要な契約等】

ライセンス契約

契約会社名	契約締結先	契約内容	対象地域	契約発効日	有効期限
株式会社ココスジャパン (当社)	株式会社ファイブスター	<p>契約締結先は、対象地域においてレストラン“COCO'S”の商号を使用し、レストランの経営ができる。</p> <p>当社は、レストランの経営に必要なノウハウを提供する。</p> <p>当社は、技術援助及び要員の教育研修を行なう。</p> <p>当社は、レストラン経営に関する情報を継続的に提供する。</p> <p>売上高に対応したロイヤルティの受領。</p>	近畿地方 北陸地方	2010年 2月5日	2020年 2月4日

6【研究開発活動】

特記すべき事項はありません。

7【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

(1)重要な会計方針及び見積り

当社の財務諸表は、わが国において一般に公正妥当と認められている会計基準に基づき作成されております。この財務諸表の作成にあたり、見積りが必要な事項につきましては、合理的な基準に基づき会計上の見積りを行っております。

詳細につきましては、「第5 経理の状況 1 財務諸表等(1)財務諸表 注記事項(重要な会計方針)」をご参照ください。

(2)当事業年度の経営成績の分析

当事業年度の経営成績の分析につきましては、「1 業績等の概要」をご参照ください。

(3)経営成績に重要な影響を与える要因について

経営成績に重要な影響を与える要因につきましては、「4 事業等のリスク」をご参照ください。

(4)資本の財源及び資金の流動性についての分析

資本の財源及び資金の流動性についての分析につきましては、「1 業績等の概要」をご参照ください。

第3【設備の状況】

1【設備投資等の概要】

当社は、当事業年度におきまして25億86百万円の設備投資を実施いたしました。

そのうち主なものは、新規出店8億5百万円、店舗の改装4億17百万円、既存店厨房機器の入替等13億20百万円です。

なお、設備投資には、有形固定資産の他、無形固定資産、長期前払費用等を含めて記載しております。

また、当事業年度において重要な設備の除却等はありません。

2【主要な設備の状況】

当社における主要な設備は、次のとおりであります。

2017年3月31日現在

事業所名 (所在地)	セグメント の名称	設備の内容	帳簿価額					従業員数 (人)	
			建物及び構 築物 (千円)	機械装置及 び運搬具 (千円)	土地 (千円) (面積㎡)	リース資産 (千円)	その他 (千円)		合計 (千円)
本社 (東京都港区)	外食事業	統括業務施設	10,630	17,361	-	38,097	38,800	104,890	47
物流部 (茨城県土浦市他)		物流設備他	441,963 〔136,718〕	57,057 〔4,499〕	236,957 〔236,957〕 (5,318)	-	2,043 〔0〕	738,022 〔378,175〕	7
トレーニングセンター (茨城県つくば市他)		その他設備	25,894	1,681	-	-	1,337	28,913	4
土浦店他505店		販売設備	11,658,349	1,793,531	599,809 (3,741.7)	13,597	1,061,326	15,126,614	6,176

(注) 1. 物流部の土地建物等の一部をグループ会社に賃貸しております。当該金額は、〔 〕内に内数表示しております。

2. 各資産金額は、帳簿価額で表示しており、建設仮勘定は含めておりません。

3. 上記金額には消費税等は含まれておりません。

4. 店舗のうち、土地(438店)及び建物(381店)は賃借によるものです。当該賃借物件の年間賃借料は、6,648,199千円です。

5. 従業員数欄に、臨時雇用者の年間平均人員(1日8時間換算による月平均人数)を含んでおります。

3【設備の新設、除却等の計画】

(1) 重要な設備の改修等

事業所名 (所在地)	セグメント の名称	設備の内容	投資予定金額		資金調達方法	着手及び完了予定年月		完成後の 増加能力
			総額 (千円)	既支払額 (千円)		着手	完了	
新規店舗	外食産業	店舗設備	574,000	-	自己資金	2017年4月	2018年3月	-
既存店舗	外食産業	店舗設備	2,299,000	-	自己資金	2017年4月	2018年3月	-

(注) 上記金額には消費税等は含まれておりません。

(2) 重要な設備の除却等

経常的な設備の更新のための除却等を除き、重要な設備の除却等の計画はありません。

第4【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	46,100,000
計	46,100,000

【発行済株式】

種類	事業年度末現在発行数(株) (2017年3月31日)	提出日現在発行数(株) (2017年6月22日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	17,268,273	17,268,273	東京証券取引所 JASDAQ (スタンダード)	単元株式数 100株
計	17,268,273	17,268,273	-	-

(2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4)【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総 数増減数 (株)	発行済株式総 数残高(株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金増 減額(千円)	資本準備金残 高(千円)
2001年6月19日	1,900,000	17,268,273	-	3,198,904	-	3,014,004

(注) 上記の減少は利益による自己株式の消却によるものであります。

(6)【所有者別状況】

2017年3月31日現在

区分	株式の状況(1単元の株式数100株)							計	単元未満株 式の状況 (株)
	政府及び地 方公共団体	金融機関	金融商品取 引業者	その他の法 人	外国法人等		個人その他		
					個人以外	個人			
株主数(人)	-	3	6	157	30	20	31,282	31,498	-
所有株式数 (単元)	-	341	40	91,485	1,459	36	79,299	172,660	2,273
所有株式数の 割合(%)	-	0.20	0.02	52.99	0.84	0.02	45.93	100.00	-

(注) 1. 自己株式295,924株は、「個人その他」に2,959単元及び「単元未満株式の状況」に24株含めて記載しております。

2. 「その他の法人」の欄には、証券保管振替機構名義の株式が18単元含まれております。

(7) 【大株主の状況】

2017年3月31日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式総数 に対する所有株式 数の割合(%)
株式会社ゼンショーホールディングス	東京都港区港南2-18-1	8,700	50.38
ココスジャパン従業員持株会	東京都港区港南2-18-1	156	0.91
アサヒビール株式会社	東京都墨田区吾妻橋1-23-1	81	0.47
株式会社大倉商事	茨城県ひたちなか市中根4924	68	0.40
国分グループ本社株式会社	東京都中央区日本橋1-1-1	30	0.17
日本マスタートラスト信託銀行株式会社	東京都港区浜松町2-11-3	27	0.16
J.P.MORGAN SECURITIES LLC-CLEARING	FOUR CHASE METROTECH CENTER BROOKLYN, NY 11245	27	0.16
泉 三和子	東京都日野市	26	0.15
昭和産業株式会社	東京都千代田区内神田2-2-1	26	0.15
村田 國樹	栃木県真岡市	25	0.15
計	-	9,169	53.10

(注) 上記の他、自己株式が295千株(1.71%)あります。

(8) 【議決権の状況】

【発行済株式】

2017年3月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	普通株式 295,900	-	-
完全議決権株式(その他)	普通株式 16,970,100	169,701	-
単元未満株式	普通株式 2,273	-	-
発行済株式総数	17,268,273	-	-
総株主の議決権	-	169,701	-

(注) 「完全議決権株式(その他)」の欄には、証券保管振替機構名義の株式が、1,800株含まれております。また、「議決権の数」欄には、同機構名義の完全議決権株式に係る議決権の数18個が含まれております。

【自己株式等】

2017年3月31日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有 株式数(株)	他人名義所有 株式数(株)	所有株式数の 合計(株)	発行済株式総数 に対する所有株式 数の割合 (%)
株式会社ココスジャパン	東京都港区港南二丁目18番1号	295,900	-	295,900	1.71
計	-	295,900	-	295,900	1.71

(9) 【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

2【自己株式の取得等の状況】

【株式の種類等】 普通株式

(1)【株主総会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

(2)【取締役会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

(3)【株主総会決議又は取締役会決議に基づかないものの内容】

該当事項はありません。

(4)【取得自己株式の処理状況及び保有状況】

区分	当事業年度		当期間	
	株式数(株)	処分価額の総額 (千円)	株式数(株)	処分価額の総額 (千円)
引き受ける者の募集を行った取得自己株式	-	-	-	-
消却の処分を行った取得自己株式	-	-	-	-
合併、株式交換、会社分割に係る移転を行った取得自己株式	-	-	-	-
その他	-	-	-	-
保有自己株式数	295,924	-	295,924	-

(注) 当期間における保有自己株式数には、2017年6月1日からこの有価証券報告書提出日までの単元未満株式の買取による株式は含まれておりません。

3【配当政策】

当社は、将来の事業展開に備えて財務体質と経営基盤の強化に努めるとともに、株主各位に対する安定的な配当をしていくことを基本方針としております。

当社は、中間配当と期末配当の年2回の剰余金の配当を行うことを基本方針としており、これらの剰余金の配当の決定機関は、期末配当については株主総会、中間配当については取締役会であります。

当事業年度の配当につきましては、上記方針に基づき当期は1株当たり24円の配当(うち中間配当12円)を実施することを決定しました。

内部留保資金につきましては、新規店舗と既存店の改装等への設備投資に有効に活用してまいりたいと考えております。

当社は、会社法第454条第5項の規定により、取締役会の決議によって中間配当を行うことができる旨を定款に定めております。

なお、当事業年度に係る剰余金の配当は以下のとおりであります。

決議年月日	配当金の総額 (千円)	1株当たり配当額 (円)
2016年11月7日 取締役会決議	203,668	12
2017年6月21日 定時株主総会決議	203,668	12

4【株価の推移】

(1)【最近5年間の事業年度別最高・最低株価】

回次	第35期	第36期	第37期	第38期	第39期
決算年月	2013年3月	2014年3月	2015年3月	2016年3月	2017年3月
最高(円)	1,662	1,643	1,958	1,992	2,130
最低(円)	1,498	1,542	1,587	1,700	1,831

(注) 最高・最低株価は、2012年4月1日より大阪証券取引所JASDAQ(スタンダード)におけるものであり、2013年7月16日より東京証券取引所JASDAQ(スタンダード)におけるものであります。

(2)【最近6月間の月別最高・最低株価】

月別	2016年10月	11月	12月	2017年1月	2月	3月
最高(円)	1,906	1,913	1,928	1,975	2,008	2,130
最低(円)	1,880	1,882	1,910	1,918	1,961	1,996

(注) 最高・最低株価は、東京証券取引所JASDAQ(スタンダード)におけるものであります。

5【役員の状況】

男性6名女性2名（役員のうち女性の比率25%）

役名	職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (千株)
取締役会長		小川 賢太郎	1948年7月29日生	1982年6月 (株)ゼンショー(現(株)ゼンショーホールディングス)設立 代表取締役社長 2000年9月 当社取締役会長(現任) 2007年6月 (株)サンデーサン(現(株)ジョリーパスタ)取締役会長(現任) 2009年6月 (株)ゼンショー(現(株)ゼンショーホールディングス)代表取締役会長兼社長(現任) 2014年4月 (株)ゼンショー(現(株)すき家本部)代表取締役会長 2014年11月 (株)すき家本部取締役会長(現任) 2017年1月 国民生活産業・消費者団体連合会会長(現任)	(注) 3	12
代表取締役社長		池田 安希子	1960年7月26生	1983年4月 (株)大丸入社 1993年4月 同社紳士雑貨部本部バイヤー 2003年4月 (株)イトーヨーカ堂入社 同社衣料事業部子供衣料シニアMD 2011年4月 同社執行役員肌着シニアMD 2014年5月 同社執行役員衣料事業部長 2015年5月 同社執行役員QC室長 2016年3月 (株)ジョリーパスタ入社 同社執行役員 2016年4月 同社代表取締役社長 2017年4月 同社取締役(現任) 当社入社 2017年4月 当社社長執行役員 2017年6月 当社代表取締役社長(現任)	(注) 3	-
取締役		小川 一政	1977年4月17日生	2001年4月 日商エレクトロニクス(株)入社 2006年5月 (株)ゼンショー(現(株)ゼンショーホールディングス)入社 関連企業室マネジャー 2007年6月 同社海外事業部マネジャー 2008年6月 同社グループ経営企画室ゼネラルマネジャー(海外担当) 2009年6月 (株)ゼンショー(現(株)ゼンショーホールディングス)取締役 2011年11月 (株)ゼンショー(現(株)すき家本部)取締役(現任) 2013年1月 (株)ゼンショーホールディングス取締役グローバル事業推進本部長 2014年5月 (株)ゼンショー商事代表取締役社長(現任) 2014年6月 当社取締役(現任) 2014年6月 (株)ゼンショーホールディングス常務取締役グローバル事業推進本部長兼グループMD本部管掌 2015年1月 (株)ゼンショーホールディングス常務取締役グローバル事業推進本部長兼グループBB本部長 2016年3月 (株)ゼンショーホールディングス常務取締役グローバル事業推進本部長(現任)	(注) 3	-

役名	職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (千株)
取締役		佐藤 聡司	1963年11月25日生	1986年4月 ㈱住友銀行(現㈱三井住友銀行)入行 2010年4月 同行大阪中央法人営業部長 2011年4月 同行浜松町法人営業部長 2014年4月 同行銀座法人営業第二部長 2016年5月 ㈱すき家本部執行役員 2016年6月 当社取締役(現任) 2016年8月 ㈱ゼンショーホールディングス 渉外本部長 2016年9月 ㈱ゼンショーホールディングス 執行役員 2016年12月 ㈱ゼンショーホールディングス 理事 (現任)	(注) 3	-
取締役		葉山 良子	1959年10月7日生	1983年4月 ㈱富士銀行(現㈱みずほ銀行)入行 1990年10月 監査法人トーマツ(現有限責任監査法人 トーマツ)入所 1994年3月 公認会計士登録 2007年1月 新日本監査法人(現新日本有限責任監査 法人)入所 2015年1月 葉山良子公認会計士事務所代表(現任) 2015年6月 当社社外監査役 2016年5月 スギホールディングス㈱社外取締役 (現任) 2016年8月 日本公認会計士協会 専門研究員 (現任) 2017年6月 当社取締役(現任)	(注) 3	-
監査役		日野 保洋	1955年1月28日生	1975年12月 ㈱サンデーサン(現㈱ジョリーパスタ)入 社 1991年4月 同社西日本営業部長 1994年4月 同社第1営業部長 1998年4月 同社店舗開発部長 1999年6月 同社取締役店舗開発部長 2005年4月 同社取締役第1事業本部長 2006年4月 同社取締役兼執行役員東日本営業部長 2007年4月 同社取締役兼執行役員営業本部長 2007年6月 同社取締役営業本部長 2011年2月 同社取締役西日本営業部長 2012年6月 同社取締役東日本営業部長 2013年3月 同社取締役東日本第2営業部長 2014年3月 同社取締役営業部長 2014年6月 当社監査役(現任)	(注) 4	-

役名	職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (千株)
監査役		山本 裕二	1948年10月16日生	1975年4月 アーサーアンダーセン東京事務所入社 1990年9月 井上斎藤英和監査法人(現有限責任 あずさ監査法人)代表社員 1996年6月 朝日アーサーアンダーセン(株)代表取締役 1999年6月 同社取締役社長 2003年10月 A S Gアドバイザーズ(株)取締役社長 2004年10月 国際自動車(株)取締役社長 2006年11月 公認会計士山本裕二事務所代表(現任) 2007年6月 (株)日興コーディアルグループ取締役 2011年6月 リョービ(株)社外監査役 2011年6月 大林道路(株)社外監査役 2011年6月 当社社外監査役(現任) 2012年6月 (株)ゼンショーホールディングス社外監査役 2015年6月 リョービ(株)社外取締役(現任)	(注) 4	-
監査役		瀧口 健	1951年1月26日生	1974年4月 (株)住友銀行(現(株)三井住友銀行)入行 1989年10月 明光証券(株)総合企画部長 1997年2月 (株)住友銀行(現(株)三井住友銀行)証券運用開発室長 1999年10月 同社プライベートバンキング営業部部长 2003年3月 (株)ナムコ入社経営戦略本部 2005年5月 (株)ドン・キホーテ経営支援本部部長 2007年3月 同社内部監査室長 2010年2月 (株)フィデック代表取締役社長 2012年5月 住石貿易(株)取締役副社長 2014年6月 住石ホールディングス(株)取締役執行役員常務 2015年6月 当社社外監査役(現任) 2015年6月 広栄化学工業(株)社外監査役(現任)	(注) 4	-
計						12

- (注) 1.取締役葉山良子は社外取締役であります。
2.監査役山本裕二、瀧口健の2名は社外監査役であります。
3.2017年6月21日開催の定時株主総会の終結の時から2年間
4.2015年6月17日開催の定時株主総会の終結の時から4年間
5.取締役 小川 一政は、取締役会長 小川 賢太郎の実子であります。

6【コーポレート・ガバナンスの状況等】

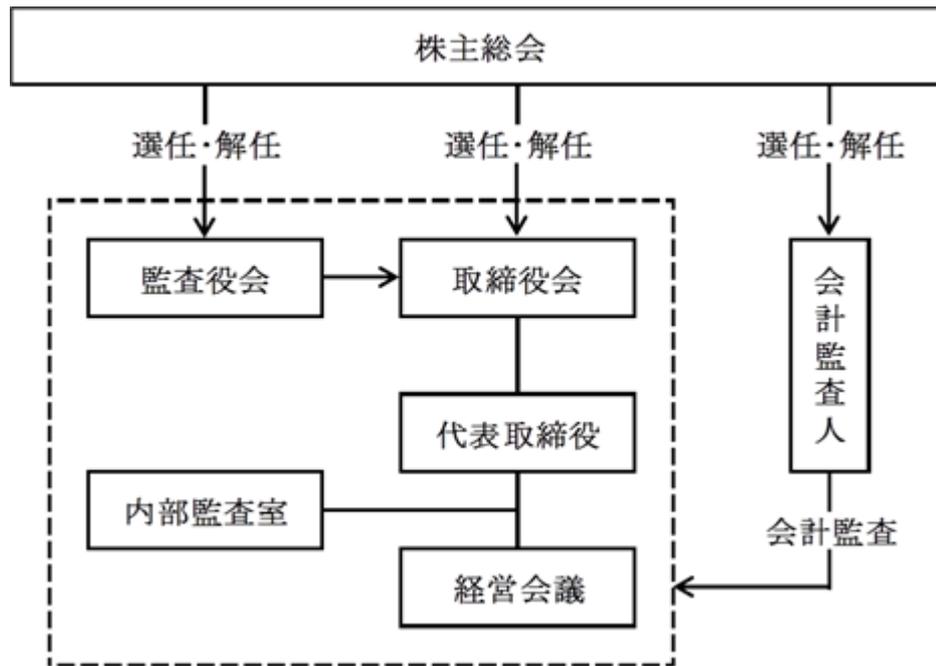
(1)【コーポレート・ガバナンスの状況】

コーポレート・ガバナンスの体制

イ)コーポレート・ガバナンスの体制の概要とその体制を採用する理由

当社の使命は、「世界中の全ての人々に、安全でおいしい食を手軽な価格で提供する」ことでもあります。そのため、食に関わる全プロセスを自ら企画・設計し、安全性と品質に全ての責任を負い、消費者の立場に立ち、全地球規模の卓越したマス・マーチャндаイジング・システムをつくり運営してまいります。この使命を共有し合ったメンバーによって、機能的かつ有機的な組織を形成し、合理的に目的追求を行う機能的組織形態を維持してまいります。

このような基本的考え方のもと、当社は公正な経営システムを維持することを最優先しております。体制の概要は次の通りです。



a 取締役会

当社の取締役会は2017年6月22日現在、取締役5名（うち社外取締役1名）で構成されております。取締役会は原則月1回開催し、取締役及び監査役が出席し、法令、定款及び取締役会規程等に定められた事項の審議・決定並びに取締役の業務執行状況を監督・監視しております。

b 監査役及び監査役会

監査役は取締役会への出席、決裁書等の閲覧を通じ、取締役会の意思決定過程及び取締役の業務執行状況について監視しております。

監査役会は3名（うち社外監査役2名）で構成されており、法令、定款及び監査役会規程に従い、監査役の監査方針、年間監査計画等を決定しております。なお、監査内容について各監査役が監査役会に報告し、情報の共有化及び監査計画の進捗確認を行うとともに、次月の監査計画について協議・承認しております。

c 会計監査人

当社は会計監査人としてPwCあらた有限責任監査法人と監査契約を結んでおり、会計監査を受けております。業務執行した公認会計士は、戸田栄の1名であり、同監査法人に所属しております。なお、会計監査業務に係る補助者の構成は、公認会計士4名、その他7名となっております。

ロ) 内部統制システムの整備の状況及びリスク管理体制の整備状況

- a 取締役の職務の執行に係わる情報の保存及び管理に関する体制
- ・取締役の職務執行に係わる情報については、「取締役会規程」「文書管理規程」その他社内規程の定めるところに従い、適切に保存しかつ管理する。
 - ・取締役及び監査役は、これらの情報を保存・管理及び保全体制の整備が適正に行われていることを確認する。
- b 損失の危険の管理に関する規程その他の体制
- ・「グループリスク管理規程」の定めるところにより、当社の様々なリスクを網羅的かつ適切に認識し、管理すべきリスクの選定を行い、管理担当部門を定め、リスク管理体制の整備・充実に努める。また、予期せぬリスクが発生することを十分認識し、新たに生じた重大なリスクについては、取締役会または代表取締役が、すみやかに管理担当部門を選定し、迅速かつ適切に対応する。
 - ・前項に基づくリスク管理体制を統括的に管理するために「リスク管理委員会」を設置し、管理担当部門のリスク対策実施状況の点検を行い、その有効性を確保する。
 - ・「食の安全・安心」「コンプライアンス」「情報セキュリティ」に係るリスク及びその他の選定されたリスクは、管理担当部門がリスク対策を策定する。また、リスクが顕在化した場合、管理担当部門は迅速かつ適切な対応を行い、結果をリスク管理委員会に報告する。
- c 取締役の職務の執行が効率的に行われることを確保するための体制
- ・中期経営計画及び年度経営計画を定め、会社として達成すべき目標を明確にし、達成度の評価・計画の見直しを定期的に行う。
 - ・意思決定プロセスの簡素化等により意思決定の迅速化を図るとともに、日々変化する経営環境に迅速に対応するため、経営会議を原則毎週1回定期的に開催し、業務運営上の課題や問題点を客観的に分析、把握するとともに、常に的確な方向性を確立するものとする。
 - ・迅速な判断や意思決定を行えるよう、日次・月次・四半期業績管理を徹底し、目標の進捗状況を明確にする。
- d 取締役及び使用人の職務の執行が法令及び定款に適合することを確保するための体制
- ・「ゼンショーグループ憲章」を制定し、全役職員が法令・定款及び社内規程の遵守の徹底を図る。
 - ・コンプライアンス委員会は、コンプライアンス（法令遵守）の取り組みを横断的に統括し、審議結果を取締役会及び監査役会に報告する。
 - ・社内のコンプライアンス（法令遵守）上の問題点について従業員が情報提供を行うホットラインを設置する。
 - ・事業活動全般の業務運営状況を把握し、その内容の適法性及び健全性を確保するため内部監査部門による監査を継続的に行う。
- e 当会社及び親会社から成る企業集団における業務の適正を確保するための体制
- ・「ゼンショーグループ憲章」は、当社の全役職員が法令及び定款を遵守した行動をとるための行動規範とする。
 - ・監査役は、適宜開催されるゼンショーグループ監査役会議においてグループ各社の情報を相互に共有して、内部統制の実施、指導、改善に努めるとともに、研鑽に励むものとする。
- f 財務報告の信頼性を確保するための体制
- ・財務報告の信頼性を確保することが、信用の維持・向上に必要不可欠であることを認識し、財務報告に係る内部統制活動の重要性を社内全体に徹底する。
 - ・「財務報告に係る内部統制についての評価計画書」を年度単位で作成し、財務報告における内部統制の整備を進める。
 - ・財務報告に係る内部統制の整備及び運用状況については、内部統制評価責任部門が、当社の財務報告の信頼性を確保するため、業務運営の適切性を検証する。
- g 監査役補助使用人及び取締役からの独立性確保のための体制
- ・監査役を補助すべき使用人として、必要な人員を配置する。
 - ・監査役補助使用人が監査役から特定の命令を受けた場合は、当該補助使用人は当該命令に関して、取締役の指揮命令を受けない。
 - ・監査役補助使用人の人事異動、人事評価、懲戒に関しては、全監査役の事前の同意を要する。
- h 取締役及び使用人が監査役に報告をするための体制その他の監査役への報告に関する体制
- ・取締役は、当社及びグループに重大な影響を及ぼす事項、内部監査の実施状況、コンプライアンスホットラインへの通報状況等を、監査役または監査役会にすみやかに報告する。
 - ・前項の当社及びグループに重大な影響を及ぼす事項を発見した使用人は、監査役または監査役会に直接報告することができる。
 - ・監査役は、内部監査部門との監査計画、監査結果等の相互開示により情報の共有化と効率化を図る。
- i その他監査役の監査が実効的に行われることを確保するための体制

- ・代表取締役は、監査役と定期的に会合を持ち、会社が対処すべき課題、監査役監査の環境整備状況、監査上の重要課題等について意見交換を行う。
 - ・監査役会に対して、独自に専門の弁護士や会計士を雇用し、監査業務に関する助言を受ける機会を保障する。
 - ・監査役は必要に応じていつでも、取締役及び使用人に対し報告を求め、重要な会議に出席し、書類の閲覧をすることができる。
- j) 反社会的勢力排除に向けた基本的な考え方及びその整備状況
- ・反社会的勢力排除に向けた基本的な考え方
当社は反社会的勢力との関係を持たない。また反社会的勢力の不当な要求には毅然とした態度で臨み、金銭その他経済的利益の提供を行わない。
 - ・反社会的勢力排除に向けた整備状況
 - 1) 当社は「ゼンショーグループ憲章」に基づき、企業倫理の浸透を図るとともに、コンプライアンスを実現するため、「コンプライアンス規程」を定め、「反社会的勢力の排除」について具体的指針を示す。
 - 2) なお「ゼンショーグループ憲章」並びに「コンプライアンス規程」については、全社員に対し、入社時または定期的な研修を通じて周知・徹底を図る。
 - 3) 更に反社会的勢力への対応は、個人や部署を孤立させぬよう、コンプライアンス委員会を組織し、警察や弁護士等外部専門機関と連携して対応する体制を構築する。

八) 責任限定契約の概要

当社と取締役（業務執行取締役等である者を除く）及び監査役は、会社法第427条第1項に基づき、同法第423条第1項の損害賠償責任を限定する契約を締結しております。当該契約に基づく損害賠償責任の限度額は、取締役（業務執行取締役等である者を除く）については1千万円又は法令が定める額のいずれか高い額、監査役については5百万円又は法令が定める額のいずれか高い額としております。

内部監査及び監査役監査の状況

当社は、内部監査室（1名）を設置し、業務監査による内部統制を随時実施しております。また、監査役につきましては、業務全般にわたり適法性及び妥当性を監査しております。監査役と監査室が相互に連携し、コーポレート・ガバナンスの強化を図っております。

社外取締役及び社外監査役の状況

当社社外取締役は1名、社外監査役は2名であります。

社外取締役葉山良子は、公認会計士としての豊富な経験と幅広い見識を当社の経営体制の強化に活かしていただくために社外取締役に選任しております。

社外監査役山本裕二は、公認会計士としての豊富な経験と幅広い見識を当社の監査機能の強化に活かしていただくために社外監査役に選任しております。同氏は、東京証券取引所の定めに基づく独立役員として指定し、同取引所に届け出ております。

社外監査役瀧口健は、経営者としての豊富な経験と幅広い見識を当社の監査機能の強化に活かしていただくために社外監査役に選任しております。

当社は社外取締役及び社外監査役を様々な分野に関する豊富な知識、経験を有する者から選任し、中立的・客観的な視点から監査をおこなうことにより経営の健全化を確保しております。また、選任の目的に適うよう、その独立性確保に留意し、実務的に独立性を確保し得ない者は社外取締役及び社外監査役として選任しておりません。

なお、当社は上記社外取締役及び社外監査役との間に特別な利害関係はありません。また、社外取締役及び社外監査役が保有する当社株式の状況は「役員状況」に記載の通りです。

当該社外取締役及び社外監査役が他の会社等の役員もしくは使用人である、または役員もしくは使用人であった場合における当該他の会社等と当社との間に、人間関係、資本的関係又は取引関係その他の利害関係はありません。

役員報酬の内容

イ) 取締役、監査役及び社外役員に支払った報酬等の総額

役員区分	報酬等の総額 (千円)	報酬等の種類別の総額(千円)				対象となる 役員の数 (人)
		基本報酬	ストック オプション	賞与	退職慰労金	
取締役 (社外取締役を除く。)	24,030	22,030	-	2,000	-	1
監査役 (社外監査役を除く。)	10,420	9,670	-	750	-	1
社外役員	12,000	12,000	-	-	-	4

(注) 1. 当事業年度末現在の取締役は5名(社外取締役は1名)、監査役は4名(社外監査役は3名)であります。

2. 使用人兼務役員の使用人分給与のうち重要なもの
該当事項はありません。

ロ) 役員報酬等の額又はその算定方法の決定に関する方針の内容及び決定方法

当社は役員報酬等の額の決定に関する方針を定めておりませんが、役員報酬等の総額は株主総会において決議し、取締役個人の報酬等の額は取締役会において、監査役個人の報酬等の額は監査役会において決定しております。1992年5月開催の定時株主総会により決定した額は以下の通りであります。

取締役	年額150,000千円以内
監査役	年額40,000千円以内

取締役の定数

当社は、取締役の定数を12名以内とする旨を定款で定めております。

取締役の選任の決議要件

当社は、取締役の選任決議について、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の過半数をもって行う旨を定款に定めております。

また、累積投票による取締役の選任については、累積投票によらないものとする旨を定款に定めております。

株主総会決議事項を取締役会で決議することができることとした事項

イ) 自己株式の取得

当社は、自己株式の取得について、経済情勢の変化に対応して財務政策等の経営諸施策を機動的に遂行することを可能とするため、会社法第165条第2項の規定により、取締役会の決議によって自己の株式を取得することができる旨を定款で定めております。

ロ) 中間配当

当社は、株主への機動的な利益還元を行うため、会社法第454条第5項の規定により、取締役会の決議によって中間配当を行うことができる旨を定款に定めております。

ハ) 取締役及び監査役の責任免除

当社は、会社法第426条第1項の規定により、任務を怠ったことによる取締役及び監査役(取締役及び監査役であった者を含む。)の損害賠償責任を、法令の限度において、取締役会の決議によって免除することができる旨を定款に定めております。これは、取締役及び監査役が職務を遂行するにあたり、その能力を十分に発揮して、期待される役割を果たしうる環境を整備することを目的とするものであります。

株主総会特別決議要件

当社は、会社法第309条第2項に定める株主総会の特別決議要件について、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の3分の2以上をもって行う旨を定款に定めております。これは、株主総会における特別決議の定足数を緩和することにより、株主総会の円滑な運営を行うことを目的とするものであります。

株式の保有状況

該当事項はありません。

(2) 【監査報酬の内容等】

【監査公認会計士等に対する報酬の内容】

前事業年度		当事業年度	
監査証明業務に基づく報酬 (千円)	非監査業務に基づく報酬 (千円)	監査証明業務に基づく報酬 (千円)	非監査業務に基づく報酬 (千円)
19,800	-	19,800	-

【その他重要な報酬の内容】

該当事項はありません。

【監査公認会計士等の提出会社に対する非監査業務の内容】

該当事項はありません。

【監査報酬の決定方針】

該当事項はありませんが、当社の規模及び事業の特性等に基づいた監査日数、要員等を総合的に勘案し、決定しております。

第5【経理の状況】

1．財務諸表の作成方法について

当社の財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」（1963年大蔵省令第59号。以下「財務諸表等規則」という。）に基づいて作成しております。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、事業年度（2016年4月1日から2017年3月31日まで）の財務諸表について、PwCあらた有限責任監査法人により監査を受けております。

なお、PwCあらた監査法人は、監査法人の種類の変更により、2016年7月1日をもってPwCあらた有限責任監査法人となっております。

3．連結財務諸表について

当社は子会社がありませんので、連結財務諸表を作成しておりません。

4．財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組みについて

当社は、財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組みを行っております。具体的には、会計基準等の内容を適切に把握し、又は会計基準等の変更等について適格に対応ができる体制を整備するため、公益財団法人財務会計基準機構へ加入しております。

1【財務諸表等】

(1)【財務諸表】

【貸借対照表】

(単位：千円)

	前事業年度 (2016年3月31日)	当事業年度 (2017年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	693,730	852,425
売掛金	696,461	789,626
商品	44,515	48,074
原材料及び貯蔵品	327,888	390,496
前払費用	742,123	738,453
関係会社短期貸付金	3,469,775	4,333,345
繰延税金資産	159,145	167,962
未収入金	117,016	151,433
その他	40,680	42,845
流動資産合計	6,291,336	7,514,663
固定資産		
有形固定資産		
建物	31,274,086	32,183,810
減価償却累計額	19,713,268	20,909,439
建物（純額）	11,560,817	11,274,371
構築物	5,092,719	5,219,414
減価償却累計額	4,181,877	4,311,253
構築物（純額）	910,842	908,160
機械及び装置	4,732,876	5,092,386
減価償却累計額	2,881,989	3,222,753
機械及び装置（純額）	1,850,887	1,869,632
車両運搬具	13,799	13,799
減価償却累計額	12,297	13,002
車両運搬具（純額）	1,501	796
工具、器具及び備品	4,113,440	4,787,150
減価償却累計額	3,300,043	3,683,642
工具、器具及び備品（純額）	813,397	1,103,508
土地	836,766	836,766
リース資産	1,787,626	1,221,371
減価償却累計額	1,544,332	1,169,675
リース資産（純額）	243,294	51,695
建設仮勘定	3,724	31,193
有形固定資産合計	16,221,232	16,076,124
無形固定資産		
のれん	317,090	282,400
借地権	3,000	3,000
商標権	689	279
ソフトウェア	31,502	23,624
電話加入権	48,838	48,838
公共施設利用権	17,558	14,204
無形固定資産合計	418,680	372,347

(単位：千円)

	前事業年度 (2016年3月31日)	当事業年度 (2017年3月31日)
投資その他の資産		
出資金	133	133
長期前払費用	23,317	19,194
長期差入保証金	1 4,730,178	1 4,674,560
長期前払家賃	1,469,761	1,463,463
繰延税金資産	92,941	81,447
投資その他の資産合計	6,316,332	6,238,799
固定資産合計	22,956,245	22,687,271
資産合計	29,247,582	30,201,934
負債の部		
流動負債		
買掛金	2 1,853,148	2 2,051,689
リース債務	226,361	22,761
未払金	706,142	720,348
設備関係未払金	215,924	157,107
未払費用	1,756,668	1,813,586
未払法人税等	685,801	614,582
未払消費税等	231,839	257,459
前受金	11,053	10,995
預り金	105,774	59,448
賞与引当金	250,058	241,735
流動負債合計	6,042,771	5,949,715
固定負債		
リース債務	36,752	31,979
資産除去債務	161,753	170,883
その他	9,154	9,154
固定負債合計	207,660	212,017
負債合計	6,250,431	6,161,732
純資産の部		
株主資本		
資本金	3,198,904	3,198,904
資本剰余金		
資本準備金	3,014,004	3,014,004
資本剰余金合計	3,014,004	3,014,004
利益剰余金		
利益準備金	181,473	181,473
その他利益剰余金		
別途積立金	10,000,000	10,000,000
繰越利益剰余金	7,031,623	8,074,675
利益剰余金合計	17,213,097	18,256,148
自己株式	428,854	428,854
株主資本合計	22,997,150	24,040,202
純資産合計	22,997,150	24,040,202
負債純資産合計	29,247,582	30,201,934

【損益計算書】

(単位：千円)

	前事業年度 (自 2015年4月1日 至 2016年3月31日)	当事業年度 (自 2016年4月1日 至 2017年3月31日)
売上高	58,511,610	58,532,882
売上原価		
商品・原材料期首たな卸高	396,207	372,403
当期商品・原材料仕入高	1 19,939,233	1 19,728,310
合計	20,335,441	20,100,714
商品・原材料期末たな卸高	372,403	438,570
売上原価合計	19,963,037	19,662,143
売上総利益	38,548,572	38,870,738
販売費及び一般管理費		
物流費	703,878	737,884
広告宣伝費	2,333,278	2,421,076
従業員給与賞与	13,919,360	14,099,788
賞与引当金繰入額	250,058	241,735
福利厚生費	1,506,698	1,565,994
退職給付費用	-	37,665
賃借料	6,583,881	6,698,197
修繕保全費	1,366,453	1,408,818
水道光熱費	3,449,399	2,946,169
減価償却費	2,590,847	2,626,999
消耗品費	829,168	853,797
その他	2,569,384	2,843,995
販売費及び一般管理費合計	36,102,409	36,482,121
営業利益	2,446,163	2,388,617
営業外収益		
受取利息	31,430	26,460
受取賃貸料	159,819	140,941
業務受託手数料	23,180	32,170
その他	43,693	30,086
営業外収益合計	258,124	229,659
営業外費用		
支払利息	3,391	1,476
賃貸費用	135,842	122,682
その他	29,923	12,928
営業外費用合計	169,157	137,087
経常利益	2,535,130	2,481,189
特別利益		
移転補償金	57,999	-
負ののれん発生益	10,969	-
受取保険金	130,800	-
違約金収入	-	40,000
その他	425	91
特別利益合計	200,194	40,091

(単位：千円)

	前事業年度 (自 2015年4月1日 至 2016年3月31日)	当事業年度 (自 2016年4月1日 至 2017年3月31日)
特別損失		
固定資産売却損	1,356	-
固定資産処分損	2,70,737	2,146,049
災害による損失	62,437	-
減損損失	3,29,575	3,-
その他	19,127	300
特別損失合計	183,235	146,349
税引前当期純利益	2,552,089	2,374,931
法人税、住民税及び事業税	1,068,321	921,866
法人税等調整額	3,707	2,677
法人税等合計	1,064,613	924,543
当期純利益	1,487,476	1,450,387

【株主資本等変動計算書】

前事業年度（自 2015年4月1日 至 2016年3月31日）

(単位：千円)

	株主資本						
	資本金	資本剰余金		利益準備金	利益剰余金		利益剰余金 合計
		資本準備金	資本剰余金 合計		その他利益剰余金		
					別途積立金	繰越利益 剰余金	
当期首残高	3,198,904	3,014,004	3,014,004	181,473	10,000,000	5,951,483	16,132,957
当期変動額							
剰余金の配当						407,336	407,336
当期純利益						1,487,476	1,487,476
株主資本以外の項目の 当期変動額 (純額)							
当期変動額合計	-	-	-	-	-	1,080,139	1,080,139
当期末残高	3,198,904	3,014,004	3,014,004	181,473	10,000,000	7,031,623	17,213,097

	株主資本		純資産合計
	自己株式	株主資本合計	
当期首残高	428,854	21,917,010	21,917,010
当期変動額			
剰余金の配当		407,336	407,336
当期純利益		1,487,476	1,487,476
株主資本以外の項目の 当期変動額 (純額)		-	-
当期変動額合計	-	1,080,139	1,080,139
当期末残高	428,854	22,997,150	22,997,150

当事業年度(自 2016年4月1日 至 2017年3月31日)

(単位:千円)

	株主資本						
	資本金	資本剰余金		利益剰余金			
		資本準備金	資本剰余金 合計	利益準備金	その他利益剰余金		利益剰余金 合計
					別途積立金	繰越利益 剰余金	
当期首残高	3,198,904	3,014,004	3,014,004	181,473	10,000,000	7,031,623	17,213,097
当期変動額							
剰余金の配当						407,336	407,336
当期純利益						1,450,387	1,450,387
株主資本以外の項目の 当期変動額(純額)							
当期変動額合計	-	-	-	-	-	1,043,051	1,043,051
当期末残高	3,198,904	3,014,004	3,014,004	181,473	10,000,000	8,074,675	18,256,148

	株主資本		純資産合計
	自己株式	株主資本合計	
当期首残高	428,854	22,997,150	22,997,150
当期変動額			
剰余金の配当		407,336	407,336
当期純利益		1,450,387	1,450,387
株主資本以外の項目の 当期変動額(純額)		-	-
当期変動額合計	-	1,043,051	1,043,051
当期末残高	428,854	24,040,202	24,040,202

【キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前事業年度 (自 2015年4月1日 至 2016年3月31日)	当事業年度 (自 2016年4月1日 至 2017年3月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税引前当期純利益	2,552,089	2,374,931
減価償却費	2,586,853	2,612,801
減損損失	29,575	-
のれん償却額	25,722	34,690
負ののれん発生益	10,969	-
貸倒引当金の増減額(は減少)	4,470	-
賞与引当金の増減額(は減少)	2,257	8,323
受取利息及び受取配当金	31,430	26,460
支払利息	3,391	1,476
固定資産売却損益(は益)	1,356	-
固定資産処分損益(は益)	63,871	132,207
移転補償金	57,999	-
災害損失	62,437	-
受取保険金	130,800	-
違約金収入	-	40,000
売上債権の増減額(は増加)	54,337	93,165
たな卸資産の増減額(は増加)	41,263	66,167
仕入債務の増減額(は減少)	176,541	198,541
未払消費税等の増減額(は減少)	518,999	26,191
その他	129,044	312,578
小計	4,249,710	5,459,302
利息及び配当金の受取額	5,532	1,601
利息の支払額	3,391	1,476
法人税等の支払額	1,027,478	1,094,705
営業活動によるキャッシュ・フロー	3,224,372	4,364,721
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	1,513,007	2,635,616
有形固定資産の売却による収入	21,088	14,940
移転補償金による収入	57,999	-
無形固定資産の取得による支出	11,667	4,125
無形固定資産の売却による収入	288	-
長期前払費用の取得による支出	1,600	2,222
資産除去債務の履行による支出	3,000	3,000
事業譲受による支出	2 1,030,440	2 -
差入保証金の差入による支出	32,311	82,238
差入保証金の回収による収入	149,851	93,404
長期前払家賃の回収による収入	4,400	4,400
長期前払家賃の支出	30,862	147,746
違約金収入	-	40,000
投資活動によるキャッシュ・フロー	2,389,260	2,722,203
財務活動によるキャッシュ・フロー		
リース債務の返済による支出	337,076	212,652
配当金の支払額	407,486	407,600
財務活動によるキャッシュ・フロー	744,563	620,253
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	90,549	1,022,264
現金及び現金同等物の期首残高	4,072,957	4,163,506
現金及び現金同等物の期末残高	1 4,163,506	1 5,185,770

【注記事項】

(重要な会計方針)

1. たな卸資産の評価基準及び評価方法

評価基準は原価法(収益性の低下による簿価切下げの方法)によっております。

(1) 商品

最終仕入原価法

(2) 原材料及び貯蔵品

最終仕入原価法

2. 固定資産の減価償却の方法

(1) 有形固定資産(リース資産を除く)

定額法によっております。

なお、耐用年数及び残存価額については、法人税法に規定する方法と同一の基準によっております。

(2) 無形固定資産(リース資産を除く)及び長期前払費用

定額法によっております。

なお、自社利用のソフトウェアについては、社内における利用可能期間(5年)に基づく定額法を採用しております。

(3) リース資産

所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産

リース期間を耐用年数とした定額法を採用しております。

3. 引当金の計上基準

(1) 貸倒引当金

債権の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、回収不能見込額を計上しております。

(2) 賞与引当金

従業員に対する賞与の支給に備えるため、支給見込額のうち、当期の負担額を計上しております。

4. のれんの償却方法及び償却期間

20年以内の定額法により償却を行っております。

5. キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲

キャッシュ・フロー計算書における資金(現金及び現金同等物)は、手許現金、随時引き出し可能な預金及び容易に換金可能であり、かつ、価値の変動について僅少なりスクしか負わない取得日から3ヶ月以内に償還期限の到来する短期投資からなっております。

6. 退職給付に係る会計処理の方法

2016年8月1日付で当社は確定拠出年金制度を採用しております。

7. その他財務諸表作成のための重要な事項

消費税等の会計処理の方法

税抜方式を採用しております。

(表示方法の変更)

(損益計算書関係)

前事業年度において、「営業外損益」の「その他」に含めていた「業務受託手数料」は、営業外収益の総額の100分の10を超えたため、当事業年度より独立掲記することとしております。また、前事業年度において、独立掲記しておりました「営業外収益」の「受取技術料」、「受取手数料」及び「備品貸与収入」は営業外収益の総額の100分の10以下であるため、当事業年度より「その他」に含めて表示しております。この表示方法の変更を反映させるため、前事業年度の財務諸表の組替えを行っております。

この結果、前事業年度の損益計算書において、「営業外収益」の「その他」に表示していた53,524千円、「受取技術料」に表示していた3,920千円、「受取手数料」に表示していた37千円及び「備品貸与収入」に表示していた9,391千円はそれぞれ「業務受託手数料」23,180千円、「その他」43,693千円として組替えております。

(追加情報)

「繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針」(企業会計基準適用指針第26号 2016年3月28日)を当事業年度から適用しております。

(貸借対照表関係)

1. 差入保証金50,000千円を資金決済に関する法律に基づき供託しております。

2. 関係会社に対するものが次のとおり含まれております。

	前事業年度 (2016年3月31日)	当事業年度 (2017年3月31日)
買掛金	1,830,686千円	2,033,668千円

(損益計算書関係)

1. 関係会社に対するものが次のとおり含まれております。

	前事業年度 (自 2015年4月1日 至 2016年3月31日)	当事業年度 (自 2016年4月1日 至 2017年3月31日)
当期商品・原材料仕入高	20,038,096千円	19,849,353千円

2. 固定資産処分損の内訳は次のとおりであります。

	前事業年度 (自 2015年4月1日 至 2016年3月31日)	当事業年度 (自 2016年4月1日 至 2017年3月31日)
建物	52,056千円	96,092千円
構築物	3,055	8,187
機械及び装置	7,081	21,557
工具、器具及び備品	1,154	6,086
撤去費用	6,865	13,841
その他	523	283
計	70,737	146,049

3. 減損損失

前事業年度(自 2015年4月1日 至 2016年3月31日)

当社は主として各店舗を単位として、また、賃貸資産については各物件を単位として資産をグルーピングしております。当事業年度においては、回収可能価額を著しく低下させる変化があったため、帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失29,575千円(建物15,796千円、その他13,779千円)として特別損失に計上しております。その内訳は以下のとおりであります。

用途	種類	金額
直営店舗2店舗	建物等	29,575千円

なお、当該資産グループの回収可能価額は、正味売却価額と使用価値を比較し、いずれか高い方の金額を回収可能価額としております。

当事業年度(自 2016年4月1日 至 2017年3月31日)

該当事項はありません。

(株主資本等変動計算書関係)

前事業年度(自 2015年4月1日 至 2016年3月31日)

1. 発行済株式の種類及び総数並びに自己株式の種類及び株式数に関する事項

	当事業年度期首 株式数(株)	当事業年度増加 株式数(株)	当事業年度減少 株式数(株)	当事業年度末株 式数(株)
発行済株式				
普通株式	17,268,273	-	-	17,268,273
合計	17,268,273	-	-	17,268,273
自己株式				
普通株式	295,924	-	-	295,924
合計	295,924	-	-	295,924

2. 新株予約権及び自己新株予約権に関する事項

該当事項はありません。

3. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり配当 額(円)	基準日	効力発生日
2015年6月17日 定時株主総会	普通株式	203,668	12	2015年3月31日	2015年6月18日
2015年11月4日 取締役会	普通株式	203,668	12	2015年9月30日	2015年12月4日

(2) 基準日が当事業年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌事業年度となるもの

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	配当の原資	1株当たり配 当額(円)	基準日	効力発生日
2016年6月17日 定時株主総会	普通株式	203,668	利益剰余金	12	2016年3月31日	2016年6月20日

当事業年度（自 2016年4月1日 至 2017年3月31日）

1. 発行済株式の種類及び総数並びに自己株式の種類及び株式数に関する事項

	当事業年度期首 株式数（株）	当事業年度増加 株式数（株）	当事業年度減少 株式数（株）	当事業年度末株 式数（株）
発行済株式				
普通株式	17,268,273	-	-	17,268,273
合計	17,268,273	-	-	17,268,273
自己株式				
普通株式	295,924	-	-	295,924
合計	295,924	-	-	295,924

2. 新株予約権及び自己新株予約権に関する事項

該当事項はありません。

3. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり配当 額(円)	基準日	効力発生日
2016年6月17日 定時株主総会	普通株式	203,668	12	2016年3月31日	2016年6月20日
2016年11月7日 取締役会	普通株式	203,668	12	2016年9月30日	2016年12月2日

(2) 基準日が当事業年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌事業年度となるもの

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	配当の原資	1株当たり配 当額(円)	基準日	効力発生日
2017年6月21日 定時株主総会	普通株式	203,668	利益剰余金	12	2017年3月31日	2017年6月22日

(キャッシュ・フロー計算書関係)

1. 現金及び現金同等物の期末残高と貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係

	前事業年度 (自 2015年4月1日 至 2016年3月31日)	当事業年度 (自 2016年4月1日 至 2017年3月31日)
現金及び預金勘定	693,730千円	852,425千円
現金同等物に含まれる短期貸付金又は短期借入金(注)	3,469,775	4,333,345
現金及び現金同等物	4,163,506	5,185,770

(注) 株式会社ゼンショーホールディングスがグループ各社に提供するキャッシュ・マネジメント・システムによるものです。

2. 事業の譲受により増加した資産及び負債の主な内訳

前事業年度(自 2015年4月1日 至 2016年3月31日)

流動資産	21,580千円
固定資産	752,982
資産合計	774,563
流動負債	2,258
固定負債	12,918
負債合計	15,176

当事業年度(自 2016年4月1日 至 2017年3月31日)

該当事項はありません。

3. 重要な非資金取引の内容

(1) ファイナンス・リース取引に係る資産及び債務の額

	前事業年度 (自 2015年4月1日 至 2016年3月31日)	当事業年度 (自 2016年4月1日 至 2017年3月31日)
ファイナンス・リース取引に係る資産及び債務の額	29,268千円	5,319千円

(リース取引関係)

ファイナンス・リース取引(借主側)

所有権移転外ファイナンス・リース取引

1. リース資産の内容

有形固定資産

主として店舗設備(工具、器具及び備品)であります。

2. リース資産の減価償却の方法

重要な会計方針「2. 固定資産の減価償却の方法」に記載のとおりであります。

(金融商品関係)

1. 金融商品の状況に関する事項

(1) 金融商品に対する取組方針

当社は、設備投資計画に照らして、必要な資金を株式会社ゼンショーホールディングスが提供するキャッシュ・マネジメント・システムにより運用、調達しております。

(2) 金融商品の内容及びそのリスク

売掛金は、主にクレジット会社に対するものであり、相手先の信用リスクに晒されております。

建設協力金(前払家賃及び長期前払家賃)は、支払家賃との相殺により回収しますが、店舗物件のオーナーの信用リスクに晒されております。

買掛金は、そのほとんどが1ヶ月以内の支払期日であります。

(3) 金融商品に係るリスク管理体制

信用リスク(取引先の契約不履行等に係るリスク)の管理

売掛金は、取引相手ごとに期日及び残高を管理しております。

建設協力金は、相手先の状況を定期的にモニタリングし、財務状況の悪化等の早期把握によりリスク軽減を図っております。

資金調達に係る流動性リスク(支払期日に支払いを実行できなくなるリスク)の管理

当社は、適時に資金繰計画を作成・更新するとともに、株式会社ゼンショーホールディングスが提供するキャッシュ・マネジメント・システムに参加することにより流動性リスクを管理しております。

(4) 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明

金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれております。当該価額の算定においては変動要因を織り込んでいるため、異なる前提条件等を採用することにより、当該価額が変動することがあります。

2. 金融商品の時価等に関する事項

貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。なお、時価を把握することが極めて困難と認められるものは含まれておりません。

前事業年度(2016年3月31日)

	貸借対照表計上額 (千円)	時価(千円)	差額(千円)
現金及び預金	693,730	693,730	-
売掛金	696,461	696,461	-
関係会社短期貸付金	3,469,775	3,469,775	-
前払家賃及び長期前払家賃	1,650,886	1,766,069	115,182
買掛金	1,853,148	1,853,148	-

当事業年度(2017年3月31日)

	貸借対照表計上額 (千円)	時価(千円)	差額(千円)
現金及び預金	852,425	852,425	-
売掛金	789,626	789,626	-
関係会社短期貸付金	4,333,345	4,333,345	-
前払家賃及び長期前払家賃	1,633,332	1,722,004	88,671
買掛金	2,051,689	2,051,689	-

(注) 1. 金融商品の時価の算定方法及び有価証券及びデリバティブ取引に関する事項

- 現金及び預金 売掛金 関係会社短期貸付金

これらは短期間で決済されるものであるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

- 前払家賃及び長期前払家賃

これらの時価は将来キャッシュ・フローの合計額を期末日直近の国債の利回りで割り引いた現在価値により算定しております。

- 買掛金

これらは短期間で決済されるものであるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

(注) 2. 時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品

(単位：千円)

区分	前事業年度 (2016年3月31日)	当事業年度 (2017年3月31日)
長期差入保証金	4,730,178	4,674,560

これらについては、市場価格を把握することが極めて困難であること等から、上の表には含めておりません。

(注) 3. 金銭債権の決算日後の償還予定額

前事業年度(2016年3月31日)

	1年以内 (千円)	1年超 5年以内 (千円)	5年超 10年以内 (千円)	10年超 (千円)
現金及び預金	693,730	-	-	-
売掛金	696,461	-	-	-
関係会社短期貸付金	3,469,775	-	-	-
前払家賃及び長期前払家賃	181,125	592,946	570,124	306,689
合計	5,041,093	592,946	570,124	306,689

当事業年度(2017年3月31日)

	1年以内 (千円)	1年超 5年以内 (千円)	5年超 10年以内 (千円)	10年超 (千円)
現金及び預金	852,425	-	-	-
売掛金	789,626	-	-	-
関係会社短期貸付金	4,333,345	-	-	-
前払家賃及び長期前払家賃	169,869	606,744	570,647	286,072
合計	6,145,265	606,744	570,647	286,072

(注) 4. 関係会社短期借入金及び長期借入金の決算日後の返済予定額

前事業年度(2016年3月31日)

該当事項はありません。

当事業年度(2017年3月31日)

該当事項はありません。

(有価証券関係)

1. その他有価証券

前事業年度(2016年3月31日)

該当事項はありません。

当事業年度(2017年3月31日)

該当事項はありません。

2. 売却したその他有価証券

前事業年度(自 2015年4月1日 至 2016年3月31日)

該当事項はありません。

当事業年度(自 2016年4月1日 至 2017年3月31日)

該当事項はありません。

(デリバティブ取引関係)

1. ヘッジ会計が適用されていないデリバティブ取引

該当事項はありません。

2. ヘッジ会計が適用されているデリバティブ取引

金利関連

前事業年度(2016年3月31日)

該当事項はありません。

当事業年度(2017年3月31日)

該当事項はありません。

(税効果会計関係)

1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	前事業年度 (2016年 3月31日)	当事業年度 (2017年 3月31日)
繰延税金資産		
未払事業税否認	61,102千円	71,771千円
賞与引当金否認	77,168	74,599
未払社会保険料否認	11,531	12,018
未払事業所税否認	9,343	9,572
資産除去債務	49,528	52,324
減損損失否認	80,401	68,295
その他	7,218	5,892
繰延税金資産計	296,294	294,476
繰延税金負債		
建設協力金時価評価差額	27,250	28,076
資産除去債務に対応する除去費用	12,964	13,991
負ののれん	3,991	2,997
繰延税金負債計	44,206	45,065
繰延税金資産の純額	252,087	249,410

2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との差異の内訳

	前事業年度 (2016年 3月31日)	当事業年度 (2017年 3月31日)
法定実効税率	33.1%	30.86%
(調整)		
交際費等永久に損金に算入されない項目	1.1	0.8
住民税均等割	8.2	8.8
税率変更による期末繰延税金資産の減額修正	0.5	-
その他	1.1	1.6
税効果会計適用後の法人税等の負担率	41.7	38.93

(退職給付関係)

1. 採用している退職給付制度の概要

当社は当期より確定拠出年金制度を採用しております。

2. 確定拠出制度

当社は当期より確定拠出年金制度を採用しております。

当事業年度の確定拠出制度への要拠出額は37,665千円であります。

(資産除去債務関係)

資産除去債務のうち貸借対照表に計上しているもの

(1) 当該資産除去債務の概要

事業用店舗等の不動産賃貸借契約に伴う原状回復義務等であります。

(2) 当該資産除去債務の金額の算定方法

資産除去債務の見積りにあたり、使用見込期間は不動産賃貸借契約の契約期間(取得から主に20年)とし、割引率は1.1%~2.1%を採用しております。

(3) 当該資産除去債務の総額の増減

	前事業年度 (自 2015年4月1日 至 2016年3月31日)	当事業年度 (自 2016年4月1日 至 2017年3月31日)
期首残高	154,831千円	161,753千円
有形固定資産の取得に伴う増加額	7,439	9,561
時の経過による調整額	2,482	2,569
資産除去債務の履行による減少額	3,000	3,000
期末残高	161,753	170,883

(セグメント情報等)

当社は、外食事業単一のセグメントであるため、記載を省略しております。

【関連当事者情報】

1. 関連当事者との取引

(1) 財務諸表提出会社の親会社及び主要株主(会社等の場合に限る。)等

前事業年度(自 2015年4月1日 至 2016年3月31日)

種類	会社等の名称又は氏名	所在地	資本金又は出資金(千円)	事業の内容又は職業	議決権等の所有(被所有)割合(%)	関連当事者との関係	取引の内容	取引金額(千円)	科目	期末残高(千円)
親会社	㈱ゼンショーホールディングス	東京都港区	23,470,205	飲食業	(被所有) 直接 51.3	原材料仕入資金の貸付 役員の兼任	原材料仕入	20,038,096	買掛金	1,830,686
							資金の貸付	-	関係会社短期貸付金	3,469,775
							利息受取	5,509		

当事業年度(自 2016年4月1日 至 2017年3月31日)

種類	会社等の名称又は氏名	所在地	資本金又は出資金(千円)	事業の内容又は職業	議決権等の所有(被所有)割合(%)	関連当事者との関係	取引の内容	取引金額(千円)	科目	期末残高(千円)
親会社	㈱ゼンショーホールディングス	東京都港区	23,470,205	飲食業	(被所有) 直接 51.3	原材料仕入資金の貸付 役員の兼任	原材料仕入	19,849,353	買掛金	2,033,668
							資金の貸付	-	関係会社短期貸付金	4,333,345
							利息受取	1,583		

(注) 1. 上記金額のうち、取引金額は消費税等を含まず、期末残高は消費税等を含めて表示しております。

2. 取引条件ないし取引条件の決定方針等

原材料の仕入については、親会社との交渉のうえ、仕入価格を決定しております。

資金の貸付及び借入は、株式会社ゼンショーホールディングスがグループ各社に提供するキャッシュ・マネジメント・システムによるものであり、資金が日々移動するため、取引金額は記載せずに、期末残高を記載しております。また金利については、市場金利を勘案して合理的に決定しております。

(2) 財務諸表提出会社と同一の親会社をもつ会社等及び財務諸表提出会社のその他の関係会社の子会社等

前事業年度(自 2015年4月1日 至 2016年3月31日)

種類	会社等の名称又は氏名	所在地	資本金又は出資金(千円)	事業の内容又は職業	議決権等の所有(被所有)割合(%)	関連当事者との関係	取引の内容	取引金額(千円)	科目	期末残高(千円)
同一の親会社を持つ会社	㈱エイ・ダイニング	東京都港区	10,000	飲食業	-	事業の譲受	事業の譲受 譲受資産 譲受負債 譲受対価 営業譲受益	355,235 10,003 329,000 16,231	-	-

(注) 事業の譲受については、親会社の方針に基づいて株式会社エイ・ダイニングのメキシコ料理事業を譲り受けたものであり、先方の簿価に基づき、当社にて算定し交渉のうえ、決定しております。

当事業年度(自 2016年4月1日 至 2017年3月31日)

該当事項はありません。

2. 親会社又は重要な関連会社に関する注記

親会社情報

株式会社ゼンショーホールディングス(東京証券取引所に上場)

(1株当たり情報)

	前事業年度 (自 2015年4月1日 至 2016年3月31日)	当事業年度 (自 2016年4月1日 至 2017年3月31日)
1株当たり純資産額	1,354円98銭	1,416円43銭
1株当たり当期純利益金額	87円64銭	85円46銭

(注) 1. 潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載していません。

2. 1株当たり当期純利益金額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前事業年度 (自 2015年4月1日 至 2016年3月31日)	当事業年度 (自 2016年4月1日 至 2017年3月31日)
1株当たり当期純利益金額		
当期純利益(千円)	1,487,476	1,450,387
普通株主に帰属しない金額(千円)		
普通株式に係る当期純利益(千円)	1,487,476	1,450,387
期中平均株式数(千株)	16,972	16,972

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

【附属明細表】

【有形固定資産等明細表】

資産の種類	当期首残高 (千円)	当期増加額 (千円)	当期減少額 (千円)	当期末残高 (千円)	当期末減価 却累計額又は 償却累計額 (千円)	当期償却額 (千円)	差引当期末残 高 (千円)
有形固定資産							
建物	31,274,086	1,205,629	295,904	32,183,810	20,909,439	1,382,291	11,274,371
構築物	5,092,719	165,414	38,720	5,219,414	4,311,253	158,662	908,160
機械及び装置	4,732,876	455,031	95,522	5,092,386	3,222,753	414,728	1,869,632
車両運搬具	13,799	-	-	13,799	13,002	705	796
工具、器具及び備品	4,113,440	732,815	59,105	4,787,150	3,683,642	436,617	1,103,508
土地	836,766	-	-	836,766	-	-	836,766
リース資産	1,787,626	5,319	571,575	1,221,371	1,169,675	195,398	51,695
建設仮勘定	3,724	2,793,259	2,765,790	31,193	-	-	31,193
有形固定資産計	47,855,040	5,357,470	3,826,618	49,385,892	33,309,768	2,588,403	16,076,124
無形固定資産							
のれん	606,296	-	-	606,296	323,896	34,690	282,400
借地権	3,000	-	-	3,000	-	-	3,000
商標権	1,249,373	-	-	1,249,373	1,249,093	410	279
ソフトウェア	454,890	4,125	-	459,015	435,390	12,003	23,624
電話加入権	48,838	-	-	48,838	-	-	48,838
公共施設利用権	86,355	-	929	85,426	71,222	3,070	14,204
無形固定資産計	2,448,753	4,125	929	2,451,948	2,079,601	50,173	372,347
長期前払費用	275,147	2,222	-	277,369	258,175	6,345	19,194

(注) 1. 有形固定資産の当期増加額には、新規出店及び既存店舗設備機械の入替等による増加額が次のとおり含まれております。

建物	1,205,629千円
構築物	165,414千円
機械及び装置	455,031千円
工具、器具及び備品	732,815千円
建設仮勘定	2,793,259千円

2. ココス宇品店の閉店等により、下記の減少となりました。

建物	295,904千円
構築物	38,720千円
機械及び装置	95,522千円
工具、器具及び備品	59,105千円

【社債明細表】

該当事項はありません。

【借入金等明細表】

区分	当期首残高 (千円)	当期末残高 (千円)	平均利率 (%)	返済期限
関係会社短期借入金	-	-	-	-
1年以内に返済予定の長期借入金	-	-	-	-
1年以内に返済予定のリース債務	226,361	22,761	1.28	-
長期借入金(1年以内に返済予定のものを除く)	-	-	-	-
リース債務(1年以内に返済予定のものを除く)	36,752	31,979	1.44	2018~2021年
合計	263,114	54,741	-	-

(注) 1. 平均利率については、期末借入金残高に対する加重平均利率を記載しております。

2. リース債務(1年以内に返済予定のものを除く)の決算日後5年間の返済予定額は以下のとおりであります。

	1年超2年以内 (千円)	2年超3年以内 (千円)	3年超4年以内 (千円)	4年超5年以内 (千円)
リース債務	8,005	5,803	2,311	15,858

【引当金明細表】

区分	当期首残高 (千円)	当期増加額 (千円)	当期減少額 (目的使用) (千円)	当期減少額 (その他) (千円)	当期末残高 (千円)
賞与引当金	250,058	241,735	250,058	-	241,735

【資産除去債務明細表】

本明細表に記載すべき事項が財務諸表等規則第8条の28に規定する注記事項として記載されているため、資産除去債務明細表の記載を省略しております。

(2) 【主な資産及び負債の内容】

流動資産

(イ) 現金及び預金

区分	金額(千円)
現金	303,999
預金	
当座預金	2,138
普通預金	545,067
別段預金	1,219
小計	548,425
合計	852,425

(ロ) 売掛金

(a) 相手先別内訳

相手先	金額(千円)
株式会社ファイブスター	328,285
三井住友カード株式会社	229,484
株式会社ジェーシービー	106,435
株式会社ゼンショー・クーカ	62,052
株式会社ジェフグルメカード	28,258
その他	35,108
合計	789,626

(b) 売掛金の発生及び回収並びに滞留状況

当期首残高 (千円)	当期発生高 (千円)	当期回収高 (千円)	当期末残高 (千円)	回収率(%)	滞留期間(日)
(A)	(B)	(C)	(D)	$\frac{(C)}{(A) + (B)} \times 100$	$\frac{(A) + (D)}{2} - \frac{(B)}{365}$
696,461	10,035,435	9,942,270	789,626	92.6	27

(注) 消費税等の会計処理は税抜方式を採用しておりますが、上記「当期発生高」には消費税等が含まれております。

(ハ) 商品

区分	金額(千円)
商品	
売店商品	48,074
合計	48,074

(二) 原材料及び貯蔵品

区分	金額(千円)
原材料	
肉類	87,759
加工食品	59,302
清涼飲料水	57,649
野菜・果物	19,258
その他	166,526
合計	390,496

固定資産

(イ) 長期差入保証金

相手先	金額(千円)
株式会社ゼンショーホールディングス	232,811
合資会社山口商店	157,995
赤芝 益男	120,000
株式会社マーブル	84,420
株式会社横浜スカイビル	71,581
その他	4,007,751
合計	4,674,560

流動負債
 (イ)買掛金

相手先	金額(千円)
株式会社ゼンショーホールディングス	2,033,668
株式会社あすなる舎	17,356
広沢米穀株式会社	355
株式会社中清商店	243
株式会社グローバルテーブルサプライ	66
合計	2,051,689

(ロ)未払費用

区分	金額(千円)
従業員給与	1,263,326
店舗電気料	179,057
社会保険料	134,175
退職金	127,118
店舗水道料	71,581
その他	38,327
合計	1,813,586

(3)【その他】

当事業年度における四半期情報等

(累計期間)	第1四半期	第2四半期	第3四半期	当事業年度
売上高(千円)	13,715,968	29,064,959	43,732,769	58,532,882
税引前四半期(当期)純利益金額(千円)	374,375	1,304,656	1,781,967	2,374,931
四半期(当期)純利益金額(千円)	206,406	798,487	1,083,577	1,450,387
1株当たり四半期(当期)純利益金額(円)	12.16	47.05	63.84	85.46

(会計期間)	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期
1株当たり四半期純利益金額(円)	12.16	34.89	16.80	21.61

第6【提出会社の株式事務の概要】

事業年度	4月1日から3月31日まで
定時株主総会	6月中
基準日	3月31日
剰余金の配当の基準日	3月31日 9月30日
1単元の株式数	100株
単元未満株式の買取り・買増し	
取扱場所	(特別口座) 東京都千代田区神田錦町三丁目11番地 東京証券代行株式会社本店
株主名簿管理人	(特別口座) 株主名簿管理人 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 みずほ信託銀行株式会社 証券代行部
取次所	
買取・買増手数料	無料
公告掲載方法	電子公告とする。ただし事故その他のやむを得ない事由により電子公告をすることができないときは、日本経済新聞に掲載する。 公告掲載URL http://www.cocos-jpn.co.jp

株主に対する特典	<p>1. 株主優待制度の内容 「株主様お食事ご優待券」と「ストックホルダーゴールドカードまたはストックホルダーシルバーカード」の贈呈。</p> <p>2. 対象者 毎年3月31日現在及び9月30日現在の株主</p> <p>3. 贈呈基準 株主様お食事ご優待券 所有株式数1,000株以上の株主に対し、一律12,000円(500円券24枚)、所有株式数500株以上999株までの株主に対し、一律6,000円(500円券12枚)、所有株式数200株以上499株までの株主に対し、一律2,000円(500円券4枚)、所有株式数100株以上199株までの株主に対し、一律1,000円(500円券2枚)の「株主様お食事ご優待券」を贈呈。 ストックホルダーゴールドカード、ストックホルダーシルバーカード 所有株式数200株以上の株主に対しご飲食代金(税込)の10%割引の「ストックホルダーゴールドカード」、所有株式数100株以上199株までの株主に対しご飲食代金(税込)の5%割引の「ストックホルダーシルバーカード」を贈呈。</p> <p>4. 使用方法及び対象商品 店内飲食のみ有効(売店商品購入には使用できません。)</p> <p>5. 使用できる店舗 株主様お食事ご優待券 全国のココス、宝島、エルトリート、すき家、ビッグボーイ、ヴィクトリアステーション、牛庵、いちばん、久兵衛屋、なか卯、はま寿司、ジョリーパスタ、華屋与兵衛、和食よへい ストックホルダーゴールドカード・ストックホルダーシルバーカード 全国のココス、宝島、エルトリート</p> <p>6. 有効期限 3月31日現在の株主に対する贈呈分...同年12月31日まで。 9月30日現在の株主に対する贈呈分...翌年6月30日まで。</p>
----------	--

(注) 単元未満株式の権利制限

当社の単元未満株主は、以下に掲げる権利以外の権利を行使することはできません。

- (1) 会社法第189条第2項各号に掲げる権利
- (2) 会社法第166条第1項の規定による請求をする権利
- (3) 株主の有する株式数に応じて募集株式の割当ておよび新株予約権の割当てを受ける権利
- (4) 株式取扱規程に定めるところにより、その有する単元未満株式の数と併せて単元株式数となる数の株式を売り渡すことを請求する権利

第7【提出会社の参考情報】

1【提出会社の親会社等の情報】

当社は金融商品取引法第24条の7第1項に規定する親会社等はありません。

2【その他の参考情報】

当事業年度の開始日から有価証券報告書提出日までの間に次の書類を提出しております。

(1) 有価証券報告書及びその添付書類

事業年度（第38期）（自 2015年4月1日 至 2016年3月31日）2016年6月20日関東財務局長に提出。

(2) 内部統制報告書及びその添付書類

事業年度（第38期）（自 2015年4月1日 至 2016年3月31日）2016年6月20日関東財務局長に提出。

(3) 四半期報告書及び確認書

（第39期第1四半期）（自 2016年4月1日 至 2016年6月30日）2016年8月8日関東財務局長に提出。

（第39期第2四半期）（自 2016年7月1日 至 2016年9月30日）2016年11月7日関東財務局長に提出。

（第39期第3四半期）（自 2016年10月1日 至 2016年12月31日）2017年2月13日関東財務局長に提出。

(4) 臨時報告書

2016年6月23日関東財務局長に提出。

金融商品取引法第24条の5第4項及び企業内容等の開示に関する内閣府令第19条第2項第9号の2（株主総会における決議事項）の規定に基づく臨時報告書であります。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の監査報告書及び内部統制監査報告書

2017年6月21日

株 式 会 社 コ コ ス ジ ャ パ ン

取 締 役 会 御 中

P W C あ ら た 有 限 責 任 監 査 法 人

指定有限責任社員 公認会計士 戸 田 栄
業 務 執 行 社 員

< 財務諸表監査 >

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている株式会社ココスジャパンの2016年4月1日から2017年3月31日までの第39期事業年度の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書、キャッシュ・フロー計算書、重要な会計方針、その他の注記及び附属明細表について監査を行った。

財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、株式会社ココスジャパンの2017年3月31日現在の財政状態並びに同日をもって終了する事業年度の経営成績及びキャッシュ・フローの状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

< 内部統制監査 >

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第2項の規定に基づく監査証明を行うため、株式会社ココスジャパンの2017年3月31日現在の内部統制報告書について監査を行った。

内部統制報告書に対する経営者の責任

経営者の責任は、財務報告に係る内部統制を整備及び運用し、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して内部統制報告書を作成し適正に表示することにある。

なお、財務報告に係る内部統制により財務報告の虚偽の記載を完全には防止又は発見することができない可能性がある。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した内部統制監査に基づいて、独立の立場から内部統制報告書に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の監査の基準に準拠して内部統制監査を行った。財務報告に係る内部統制の監査の基準は、当監査法人に内部統制報告書に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき内部統制監査を実施することを求めている。

内部統制監査においては、内部統制報告書における財務報告に係る内部統制の評価結果について監査証拠を入手するための手続が実施される。内部統制監査の監査手続は、当監査法人の判断により、財務報告の信頼性に及ぼす影響の重要性に基づいて選択及び適用される。また、内部統制監査には、財務報告に係る内部統制の評価範囲、評価手続及び評価結果について経営者が行った記載を含め、全体としての内部統制報告書の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、株式会社ココスジャパンが2017年3月31日現在の財務報告に係る内部統制は有効であると表示した上記の内部統制報告書が、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して、財務報告に係る内部統制の評価結果について、すべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

-
- (注) 1. 上記は監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(有価証券報告書提出会社)が別途保管しております。
2. X B R L データは監査の対象には含まれていません。